

# 琉球大学学術リポジトリ

## FD委員会

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2018-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41635">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41635</a>

## F D 委員会

F D 委員会は、今年度、委員会を延べ 14 回開催し、①相互授業参観・授業公開、②学生による授業評価、③F D 講演会、④学生アンケートの実施、⑤認証評価への準備、以上の 5 点を中心に活動を行った。

なお、F D 委員は以下の 4 名である。上間陽子、小林稔、下地敏洋、田中洋。

### 1. 相互授業参観・授業公開

毎年前期後期の各 2 週間、教員が相互に授業を参観し、その結果を授業改善に活かすとともに、広く授業を公開することにより、本専攻の教育活動の周知とその改善に努めている。本年度も、前期は 2017 年 6 月 5 日（月）～16 日（金）に行われ（実習日 4 日間を除く 6 日間）、参観者は延べ 16 名であり、後期は 2017 年 12 月 4 日（月）～15 日（金）に行われ（大学の推薦入試による休講日を除く 9 日間）、参観者は延べ 17 名であった。昨年度の参観者数（前期延べ 10 名、後期延べ 11 名）に比べて増加していることから、2 年目を迎えて、教員の意識においては授業参観の実施が定着しつつあることが窺える。

アンケートの内容については、授業の目的や方法等について好意的なものが多く、現在の授業の有効性をある程度確認できるものとなっている。また、改善点の指摘等についても、現状を肯定的に捉えたうえで、さらに授業効果を高めるための助言がほとんどであり、授業者が自己を振り返る良い機会となっている。

もっとも、教員以外の参観者はほとんどいないのが実状である。この点については、本専攻の教育活動の周知という観点から、授業公開をどのように位置づけるべきか、改めて検討することが必要であろう。

### 2. 学生による授業評価

#### （1）授業評価の項目や方法

教育学部では教育活動に係る全学的な授業の点検評価に関して、教師が持つ教育力の自己点検と自律的な向上を目指して平成 18 年度から「授業評価アンケート」を導入しているが、それと同様に教職大学院教員も平成 28 年度からこの「授業評価アンケート」に参加している。この「授業評価アンケート」は、共通項目からなる授業改善のための 5 つの観点（①シラバスに記載された目的や趣旨が活かされた授業であった②使用した教材は適切であった③教員の説明はわかりやすかった④理解を促すための方法上の工夫がよくされていた⑤総合的に判断してこの授業に満足している）で構成されており、そのうえで授業者が新たに聞きたい項目を独自に構成できるようになっている。それについて受講学生・院生は 5 つの観点（1 全くそう思わない 2 そう思わない 3 どちらとも言えない 4 そう思う 5 強くそう思う）で回答している。教職大学院では、この「授業評価アンケート」の結果を受けて、各授業担当者が今年度の総括ならびに次年度の改善点などについて考察する「リフレクションシート」を作成している。

#### （2）実態

次表がこれまでの授業ならびに平均点となっている。平成 28 年度の課題発見実習 I

においては、設問1を除き4未満という結果になっているが、それ以外の授業においては4から5の平均点で推移する結果となっていた。実習については、教職大学院の授業が開講間もないこともあり、受け入れ先の学校に十分理解をしてもらえない状況があると考えられた。そのため、連携協力会議などで周知徹底をはかることならびに今後はよりいっそう密に連絡をとる必要性もあると判断し、教員の学校訪問に力をいれて対処することを確認し取り組んだ。その結果、今年度は改善をみることができた。

### 平成28年前学期 授業評価アンケート

科目名	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
沖縄の学校と社会	4.6	4.6	4.7	4.6	4.7			
課題研究 I	4.6	4.4	4.4	4.5	4.4			
学級経営の実践と課題実践と課題	4.7	4.6	4.9	4.7	4.9			
学校改革の実践と課題	4.5	4.3	4.4	4.5	4.6			
学校教育・教員のあり方の課題と実践	4.6	4.5	4.5	4.6	4.5			
教授・学習の課題と実践	4.8	4.7	4.5	4.5	4.7			
思考・判断・表現力育成の課題と実践	4.7	4.7	4.5	4.7	4.7			
生徒指導の実践と課題	4.5	4.7	4.9	4.8	4.8			
課題発見実習 I	4.1	3.9	3.9	3.8	3.8			
教育課程編成の課題と実践	4.6	4.6	4.5	4.6	4.4	3.8	3.9	
指導と評価の課題と実践	4.6	4.5	4.2	4.4	4.4	4.3	4.7	
学校不適應への実践と課題	4.9	4.7	4.9	4.7	4.9	5.0	4.8	4.8

### 平成28年後学期 授業評価アンケート

科目名	人数	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
教師の成長とメンタリング	3	4.3	4.3	4.0	4.3	4.3						
授業分析、リフレクションの理論と実践	7	4.6	4.6	4.7	4.7	4.9						
活用力としての教科外活動	3	4.3	4.3	4.7	4.3	4.7						
学校マネジメント	4	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0						
特別な支援を必要とする子どもの理解	7	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9						
理数系授業づくりの理論と実践	2	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0						
積極的生活指導・生徒指導	5	4.8	5.0	4.8	4.8	4.8						
子ども支援のための地域・保護者との協力関係づくり	2	4.9	5.0	4.9	4.9	4.9						
課題研究 II	14	3.9	4.1	4.0	4.1	3.9						
校内研究の実践と課題	6	4.8	4.7	5.0	5.0	5.0						
学習指導のための教材教具の開発と活用	5	4.8	4.6	4.8	4.6	4.8						
授業づくりの理論と実践	11	4.2	4.4	3.9	3.8	3.9						
いじめ問題への対応と課題	5	4.8	5.0	4.8	5.0	4.8						
組織的意志決定マネジメント	4	5.0	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0				
言語活動と共同学習	9	4.4	4.4	4.6	4.3	4.7	3.3	3.6	3.8	3.6	3.3	3.4

### 平成29年前学期 授業評価アンケート

科目名	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
沖縄の学校と社会	4.6	4.5	4.5	4.4	4.5			
学校不適應への実践と課題	4.9	4.9	4.9	5.0	4.9			
学校教育・教員のあり方の課題と実践	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6			
学校改革の実践と課題	4.5	4.5	4.6	4.4	4.8			
学級経営の実践と課題	4.9	4.8	4.9	4.8	4.8			
教授・学習の課題と実践	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0			
課題研究I	4.6	4.1	4.6	4.1	4.5			
生徒指導の実践と課題	4.6	4.6	4.8	4.6	4.8			
思考・判断・表現力育成の課題と実践	4.9	4.9	4.9	4.9	5.0			
課題発見実習I	4.4	4.3	4.6	4.5	4.5			
教育課程編成の課題と実践	4.2	4.0	4.0	3.8	4.0	3.9	4.0	
指導と評価の課題と実践	4.7	4.3	4.2	4.5	4.6	4.4	4.1	4.0

### 3. FD講演会

2017年8月8日(火)17時30分から約2時間にわたり、教職大学院305教室にて、仲本かな氏(前アムステルダム公立学校教員)の講演会を開催した。講師の仲本かな氏は、沖縄県の出身でオランダの一般大学を卒業後、一旦、現地企業に勤められた。その後、アムステルダムの教員養成大学で教員免許を取得され、公立学校で勤務された経験を有している。また現在はOffice Nakamotoの代表を務められている。

この講演会の冒頭の内容は、オランダの教育システムの概要であった。次にオランダでは、学校教育や教員養成が「コーチング」という教育方法で行われていることに関して、具体的な事例をもとに話された。すなわち、教師が教えるのではなく、子どもや学生が主体となって学ぶように教師は支援すること、さらには、教育や教員養成のすべてにおいて、子どもや学生に考えさせる手法で授業が成立しているとの内容であった。加えて、オランダの教員養成における理論と実践の往還では「理論」がきわめて重要で、講演内ではDeci& Ryanの「自己決定理論(SDT)」, Timothy Learyの「対人関係図」, FredKorthagenの「省察モデル」, Robert Scaerの「Fight/Flight/Freeze」及びDavid McClellandの「コンピテンシー理論」が紹介された。つまりオランダの教員養成では、日常的にこれらの理論を活用しながら、理論と実践の往還が行われているとのことであった。他方、本講演会のテーマが「オランダの教育と斬新な組織開発」であることから、後半では、北欧で開発され斬新な組織開発にとって有用であり、且つ組織開発を担う真のリーダーを育成するサーミ・コンセプト等の説明があった。

### 4. 学習成果把握のための教職大学院生を対象としたアンケート調査

2016年4月に入学した1期生は、2018年3月に修了する。本教職大学院にとって初めての修了生であるが、院生本人を対象とした質問紙調査からその学習成果を検証した。事前のアンケート調査は、2016年10月に実施し、同じ調査を2017年12月～2018年1月に行ったので、実質的には、約1年2ヶ月間の学習成果ということになる。分析の結果、学習成果を尋ねるほとんどすべての項目でポジティブな反応を示していた。本稿においては、紙幅の関係で次の通り、質問の最初の4項目(1)～(4)の結果について示す。矢印の前の値が事前調査(n=12)であり、後ろの値が事後調査(n=8)の結果である。(1)「さまざまな課題に対して、適切に対応することができる」：あてはまらない16.7%→12.5%，どちらでもない41.7%→12.5%，あてはまる41.7%→75.0%，(2)「子ども理解にすぐれている」：あてはまらない8.3%→0%，どちらでもない33.3%→37.5%，あてはまる50.0%→62.5%，(3)「自己成長を意識している」：あてはまらない0%→0%，どちらでもない8.3%→0%，あてはまる91.7%→100.0%，(4)「他の教員が困っていたら支援することができる」：あてはまらない8.3%→0%，どちらでもない16.7%→12.5%，あてはまる75.0%→87.5%。

## 5. 認証評価への準備

来年度に教員養成評価機構による認証評価を受審する予定であるため、自己評価書の作成を中心とする準備を開始した。自己評価書については、基準領域ごとに分担を決めたうえで、それらをFD委員会がまとめる作業を行っている。2017年12月11日（月）には、教員養成評価機構が行う「教職大学院等認証評価実施説明会」に参加し、認証評価に関わって必要な情報の収集に努めた。

## 6. その他

今年度の授業の中で、院生及び教職員を対象に、FD研修を兼ねて下記の講演会を実施した。

### (1) 「沖縄の教育の歴史」に係る講演

#### ①趣旨

- ・ 沖縄県における教育の歴史的背景を知ることにより、自己の課題を明確にし、その解決に向け取り組むことができる。
- ・ 沖縄県の教育施策を踏まえ、県の現状と課題を分析、自己の課題との照合を図り、解決策を探ることができる。

②日時 平成29年5月23日（火）1限「沖縄の学校と社会」

③場所 琉球大学文系総合棟 305教室

④講師 仲村 守和 氏（沖縄県教育委員会 元教育長）

⑤演題 「沖縄県の教育の変遷 －学力・家庭教育の視点から－」

※講演及び質疑終了後に意見交換会（昼食時間帯）

#### ⑥その他

- ・ 大学院生は、講演終了後に次の課題について、レポートを提出した。  
課題：「沖縄県の教育における現状と課題について」
- ・ 沖縄県教育委員会と教職大学院の一層の連携協力を強化する方策を考える。

### (2) 「キャリア教育」に係る講話

#### ①趣旨

- ・ 沖縄県におけるキャリア教育の状況を把握することにより、自己の課題を明確にし、その解決に向け取り組むことができる。
- ・ 沖縄県の教育施策を踏まえ、キャリア教育の現状と課題を分析し、自己の課題との照合を図り、解決策を探ることができる。
- ・ キャリア教育の充実のために、行政、大学、企業との連携協力を図ることで、それを担う教員としての資質及び能力を養う。

②日時 平成29年6月5日（月）2限「学校教育・教員の在り方の課題と実践」

③場所 琉球大学文系総合研究棟 305教室

④講師 新垣 道代 氏（認定キャリア教育コーディネーター、那覇市教育委員会生涯学習部那覇市石嶺公民館社会教育指導員）

⑤演題 「キャリア教育の課題と実践－行政、大学、企業との連携を通して－」

#### ⑥その他

- ・ 大学院生は、講話終了後に次の課題について、レポートを提出した。  
課題：「沖縄県におけるキャリア教育の課題と実践について」